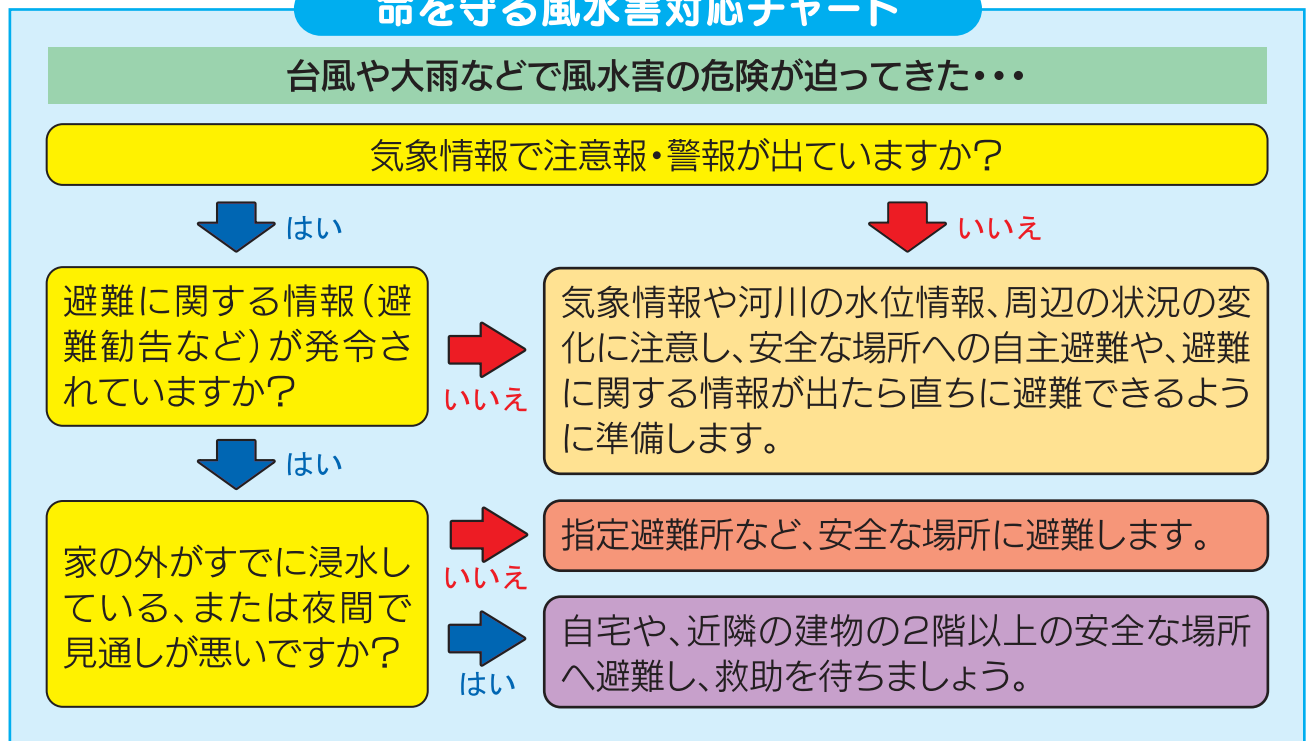


6 大雨の対応、局地的大雨について

台風・大雨発生時の対応

台風や大雨などによる風水害の危険が迫ってきた場合、気象情報を確認しながら、早めの行動を心がけましょう。以下のチャートを参考に、命を守ることを最優先に行動しましょう。

命を守る風水害対応チャート



局地的大雨の危険性について

近年、狭い範囲に短時間で強い雨を降らせる「局地的大雨」や、「集中豪雨」が増加しています。これらの雨は、発生の予測が難しいことから、「ゲリラ豪雨」とも呼ばれています。局地的大雨による水害には、「河川の氾濫」、「急な増水」、「低い土地の浸水」といった特徴があります。河川や下水道、用水路などの水が集まり流れる場所では、特に注意が必要です。

短時間で危険な水位に

河川、溪流、下水道、用水路などでは、激しい降雨や周辺からの雨水の流入により、数分から数十分の短時間でも危険な状態になることがあります。特に、中小河川では、大規模河川より水位が上がりやすいので注意が必要です。

警報等が出ない雨でも災害が発生

河川、溪流、下水道、用水路などでは、大雨や洪水の警報・注意報の発表基準に達していない雨でも、災害が発生するおそれがあります。

下水の排水能力を超える大雨

下水道の雨水排水能力（50mm/1時間）を大きく超える、時間雨量100mm以上の豪雨が頻発しています。

離れた場所の雨でも影響する

自分のいる場所で強い雨が降っていなくても、川の上流などで降った雨が流れてきて危険な状態になることがあります。

外水氾濫

大雨により増えた川の水の力により堤防が崩れるなどして住宅地などが浸水すること。

内水氾濫

川の水位の上昇により、下水道や側溝などの雨水が川へ排水されず、住宅地などが浸水すること。